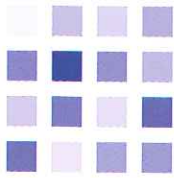


四国大学
藍の家

阿波の伝統を育む。



阿波は藍のふるさと。日本の青のうまれるところ

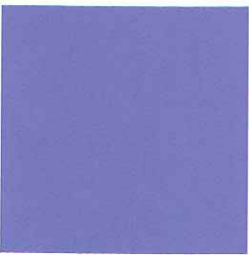
藍の葉を発酵させてつくる天然藍染料を「すくも」と言い、徳島でつくられた「すくも」を「阿波藍」と呼びます。現在も5軒の藍師が伝統を守り「阿波藍」を作り続けています。

四国大学では昭和54年より大学内に藍染専門施設「藍の家」を設置し、地域の伝統文化に根ざした教育研究活動を行っています。学生は自分たちで藍を仕込み、作品制作に取り組むという体験を通じて、徳島の伝統文化と技術を学んでいます。

藍の家では、四国大学オープンカレッジや出張授業等を通じて、広く一般社会人や、県内外の小中高등학교の児童生徒に開放し、積極的に藍染の普及に努めています。海外からの研修生も受け入れており、現在までインド・台湾・エルサルバドル・アルゼンチン・ハンガリーなど多くの国から藍の文化と技術を学びに来られました。また平成19年度より徳島県藍染研究会の事務局も設置され、初心者からプロの染色家まで広い範囲で藍染の普及、技術の向上に向けて活動を行っています。



藍の花



阿波藍すくも



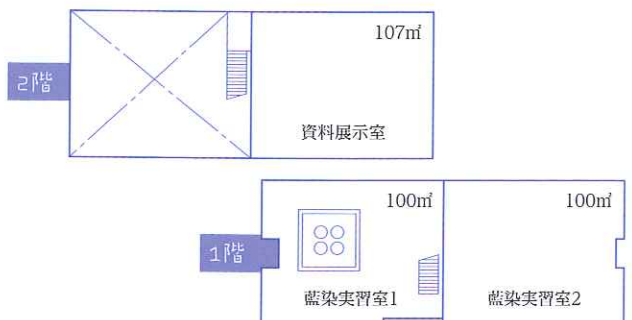
藍染実習室

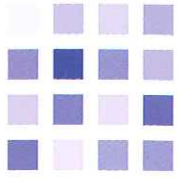
常設の大谷焼の藍甕4基と実習の規模に応じて、臨時の甕3基を備えています。最大50名まで対応可能な広い教室と実習室を備えています。



2階資料展示室

古い藍布も多数収集されています。大学祭では学生の作品も展示されます。





藍の家では伝統的な、灰汁・清酒・麩で仕込む
「灰汁発酵建て」を行っています。
仕込み後、約1週間で染色が可能になります。

藍を建てる:すくもの中に含まれる藍の色素 (Indigo) は水に溶けません。染色をするためには Indigoを還元し、水に溶ける形に変換する必要があります。この過程を「藍を建てる」と言います。

発酵経過

～清酒・ふすま建て～

仕込み分量

1.5石(270ℓ)瓶建て

■ 初日

すくも——20kg
消石灰元石—500g
清酒——1260cc
灰汁——180ℓ

■ 中石の頃

消石灰中石—300g
ふすま——200g

■ 止石の頃

消石灰止石—200g
灰汁——容器の口まで

仕込み方法

■ 初日

- 1.すくもをよく砕いて容器に入れる。
- 2.灰汁を熱して(40~50℃)容器に入れよく混ぜる。
- 3.消石灰(元石)を入れる。
- 4.清酒を入れる。
- 5.容器の6~8分目まで湯湯を入れる。
- 6.よく攪拌して仕込み完了。

■ 中石の頃

- 1.消石灰(中石)を入れる。
- 2.ふすまを流し込める程度の水で練る。
- 3.ふすまを火に掛け粘りがでるまで炊く。
- 4.人肌程度に冷まして藍に入れる。
- 5.よく攪拌する。

1

1日目
仕込み直後



液面は茶褐色で泡状の浮遊物がある。
アンモニア臭がする。
液温は40~50℃、初発pHは11.50~12.00程度

2

2日目
仕込み翌日



浮遊物が沈殿し、液はさらりとしている。
次第に発酵が進みアンモニア臭がきつくなってくる。
発酵が進む → pHが下がる

3

3~4日目
中石投入の頃



液面に紫金色の斑点が現れる。攪拌すると緑色の泡が立つ。pHが10.5~10.3前後になる頃中石を投入し、ふすまも加える。pHが12.00近くまで上昇する。
ふすま → 藍還元菌の栄養補給
中石 → 過度の発酵による腐敗を防ぐ

4

6~7日目
止石投入の頃



中石投入により発酵は一段と活性化し、液面は紫金色の膜に覆われる。攪拌すると粘りのある緑色の泡が立ち再酸化して青くなる。更にpHが低下する兆しがあれば止石を投入し、灰汁で嵩上げをする。

5

発酵完了



遠心に攪拌すると紫金色のギンギラとした泡の集合「藍の華」が浮かぶ。建ち上がりのpHは11.50前後である。嵩上げ後1~2日して染色を開始する。仕込みから建ち上がりまでは朝夕2回その後は少なくとも1日1回は攪拌してpH10.50~11.00の範囲を保持するよう灰汁・消石灰等で調整する。

藍の家年間スケジュール

- 4月 藍建て実習
- 5月 生活科学概論藍染め体験 約100名
- 6月 徳島県藍染研究会総会
- 7月 オープンキャンパス(9月まで)

8月後半~9月中頃 四国大学オープンカレッジ「藍染め講座」

- 10月 藍建て実習
- 11月 生活科学概論藍染め体験 約100名/大学祭(作品展示・バザー)
- 2月 生活科学部生活科学科 卒業制作展

藍の家



SHIKOKU UNIVERSITY
四国大学

〒771-1192 徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1
TEL 088-665-9919(直通)

